

実践報告書（外国語活動）

五泉市立五泉南小学校

登條里果

1 児童の実態

外国語活動に興味関心をもっている児童が多く、授業や活動に楽しみながら参加している。しかし、英語を使ってコミュニケーションを図ることに抵抗をもっている児童も多く、積極的に聞いてみたい、話してみたいという思いをもたせるところまでにはいっていない。英語で話したり、使ったりする機会も少なく、コミュニケーション力は低いのが実態である。そこで、英語を聞いたり話したりすることに慣れ親しむこと、日本と世界との習慣や文化の違いについて理解を深めること、友達、ALT や担任と英語でコミュニケーションを図る楽しさを感じることを目標に授業に取り組んでいきたいと考えた。

2 目指す子どもの姿

児童はこれまでの学習で、英語を聞いたり話したりすることを通して、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しんできている。さらに、世界のさまざまな習慣や文化に興味や関心も広げてきている。Hi friends! 1 Lesson8 では、教科や曜日の英語表現や音声に慣れ親しむことや世界のさまざまな習慣や文化に興味や関心を広げるために、世界の小学校で学習されている教科や学校生活を取り上げる。また、児童が楽しみながらコミュニケーション活動に取り組めるように課題解決的な活動を設定する。

「教科と曜日」を中心に扱い、第1、2時は、英語表現や音声に慣れ親しませるためにキーワードゲームやスリーヒントクイズなどの活動を行う。発音練習するだけではなく、ゲーム性を取り入れながら繰り返し英語表現を聞かせたり、言ったりする機会を多くすることで力を付けていきたい。第3時は、外国の学校生活について紹介する。外国の小学校への興味関心を高め、自分たちとの違いや共通点について考えさせていく。第4時では、外国の教科を中心に質問したいことを考え、ALT に質問するコミュニケーション活動を行う。中学校の先生に質問するコミュニケーション活動につなげる時間としたい。第5時では、教科や曜日を含んだ尋ねる英語表現を取り入れた活動を行った後、グループで作成した夢の時間割を尋ねたり答えたりしながら紹介し合う。

友達、ALT や担任とかかわることで英語表現に慣れ、積極的にコミュニケーションができるように意欲を高めさせていきたい。

3 具体的な手立てと子どもの変容

（1）外国語に慣れ親しむための手立て

ゲーム性を取り入れた活動を通して、基本的な英語表現や語彙を楽しみながら繰り返して扱い、慣れ親しませる。

ゲーム性を取り入れ、何度も聞いたり言ったりする活動に取り組ませたことで、児童は教科や曜日の英語表現に楽しみながら慣れ親しむことができた。また、積極的に話そうとする姿や友達と教え合っている姿が見られた。児童にとって難しいと思われる英語表現を意図的に繰り返し言わせるようにしたことも定着につながったように感じている。

クラスルームイングリッシュを積極的に使う。

毎回、英語を使った簡単なあいさつを交わし、月日・曜日・天気を尋ねることから授業を始めている。繰り返しやっていくことで、英語での答え方が分かるようになってきたり、表現の仕方が段々身に付いたりしている。また、活動を行わせる際も指示は児童にも分かりやすいクラスルームイングリッシュを積極的に使っている。クラスルームイングリッシュは中学校の英語学習にもつながるので、今後も積極的に取り入れていきたい。

(2) 積極的にコミュニケーションを図る手立て

学習形態の工夫：活動内容によって、個人、ペア活動、グループ活動など活動形態を工夫する。

児童同士、ALT や担任と英語でコミュニケーションを取る活動を多く取り入れ、伝え合う楽しさや伝わる喜びを味わえるようにする。音声だけでなく、アイコンタクト、スマイル、ジェスチャーを加えるとさらに相手に伝わりやすくなることも理解させる。

活動の目的を明確にしたことで、児童は積極的に ALT に外国のことを聞くための質問の仕方を覚えた。英語を使ってコミュニケーションを図るために、自己紹介したり質問したりして全員が ALT と交流することができた。英語で質問できてよかった、聞きたいことを伝えられて楽しかったという肯定的な振り返りが多かった。しかし、恥ずかしさの方が先立ってしまい、聞きたいことを伝えるためのアイコンタクト、スマイル、ジェスチャーをして質問できた児童はほとんどいなかった。

(3) 言語や文化に関する気付きを促すための手立て

What do you study on (曜日)? 中心に ALT に質問したいことを考えさせる。英語を聞き取り、学校生活に対する興味関心を高め、国によって様々な学校生活があることに気付かせる。

調べたり、担任に尋ね方を聞いたりしてグループで協力して活動することができた。ALT の英語を聞き取り、何とか反応を返す児童もいた。自分の学校生活とアメリカの学校生活を比較しながら、相違点を見付けることもできた。Lesson8 で取り扱っている国だけでなく、実際に ALT から詳しく小学校の話聞き、もっと外国のことを知りたいと感じていた。

5 成果と課題

新しい英語表現がどんどん出てくるため、なんとなく英語表現に慣れ親しむのみで終わっていることが多かった。しかし、ゲーム性を入れながら繰り返し聞いたり言ったりする活動に取り組んだことで、児童が自信をもって英語を話せるようになった。また、活動の目的やめあてを明確に示すことで、児童は積極的に英語表現を覚えることができたのではないかと感じている。

まだ「外国語活動＝ALT」と思っている児童が中にはいることも事実だ。役割分担をしたり、もっと担任が主となって授業を進められるようにしたりしたい。そして、私自身も自信をもって児童の前で英語を話せるように研鑽を積んでいきたい。